

平成30年度在宅療養連携会議 専門部会別検討事業一覧

在宅療養・在宅看取りを支える医療・介護連携推進事業

	個別事業	対応状況	担当 部会
Ⅰ．情報発信・啓 発に関する事業	1．市民への在宅療養・在宅看取りについての啓発事業		A
	（１－１）在宅療養シンポジウム	実施（継）	
	（１－２）リビング・ウィルの普及方法の検討	実施（継）	
Ⅱ．医療・介護関 係者の連携方策 や情報共有のた めの事業	2．退院前ケアカンファレンスの充実		B
	（２－１）退院前カンファレンスシートの周知・普及	実施（継）	
	3．在宅療養支援関係者の顔の見える関係性づくり		
	（３－１）多職種合同研修会の開催などによる関係性構築	実施（継）	
	（３－２）よこすかエチケット集の周知及び改訂	実施（継）	
	（３－３）多職種連携による相談対応体制（仮：多職種みん なでコーディネート）の構築	検討	
Ⅲ．関係者のスキ ルアップを目指 す事業	4．介護関係者対象の医療に関する研修等の実施		C
	（４－１）介護職員対象の医療に関する研修の企画	実施（継）	
	5．医療職対象の在宅療養に関する研修等の実施		
	（５－１）病院医療職対象の在宅療養に関する研修の企画	実施（継）	
	6．その他研修等の企画		
	（６－１）その他研修等の企画	実施（継）	

※次頁以降に専門部会別検討事業の概要を記載しています。

A：広報啓発検討専門部会担当

※各事業の最後の（ ）内のカタカナは厚生労働省が示す8つの事業項目の記号です。

I. 情報発信・啓発に関する事業

1. 市民への在宅療養・在宅看取りについての啓発事業 (キ)

目 的：在宅療養や在宅看取りという選択肢、そのあり方や方法を広く周知する。また、人生の最終段階における医療等について自ら考えてもらえるよう様々な機会を用意する。

背 景：平成25年度に横須賀市福祉部が実施した「高齢者福祉に関するアンケート」（対象：介護保険認定を受けていない65歳以上1,600人）では、「人生の最期を迎えるとき、どこで過ごしたいか」という設問に対し、60%の人が在宅療養を希望しているという結果であった。実際には市民の約60%の人が病院で亡くなっている。この差の理由の一部として、市民が「在宅療養や看取りについて知らない」、「在宅医療に不安がある」ということが推測できる。

誰にでも訪れる最期の時を市民自らも考えてもらい、選択肢の一つとして「在宅療養」を考えることができるよう、周知をしていくことは重要である。

効 果・市民に対し、「在宅療養」「在宅看取り」という選択肢があることを周知し、併せて自らの人生の質や、最期の迎え方を考える機会を提供する。

- ・これらの知識を習得することにより、万一、療養が必要になった場合も市民の不安は軽減され、冷静な対応が可能になる。市民が理解を深めることは、在宅療養を支援する医師をはじめ多職種にとっても活動しやすい状況を生む。

(1-1) 在宅療養シンポジウム

目 的 市民が地域において安心して医療・介護を受けることができる街づくりに向け、市民及び医療・福祉関係者がこれからの在宅医療の重要性とあり方を考える機会とする。

①市民には、在宅療養・在宅看取りという選択肢について知ってもらう。

②医療・福祉関係者には、在宅療養の重要性と市民ニーズを再認識してもらう。

対 象 一般市民、医療関係者、福祉関係者 500人

開催時期 平成31年1月27日（日）

想定会場 ベイサイドポケット（定員500人）

要検討事項 ・テーマ

・講師、パネルディスカッション等の企画ほか

(1-2) リビング・ウィルの周知

経 緯：平成25年度に作成検討をしたが、当時は時期尚早という結果になった。しかし、昨今では自治体自ら作成する例もあり、また本市でも福祉部において「エンディングプランサポート事業」を開始させたことなどから、平成27年度から横須賀版リビング・ウィルについて検討を開始した。平成28年度に素案を作成し、在宅療養シンポジウムで、来場者からも意見を回収した。平成29年度末に発行。

今後の方針：普及活動の実施。

B：連携手法検討専門部会担当

Ⅱ．医療・介護関係者の連携方策や情報共有のための事業

2．退院前カンファレンスの充実

(ウ、エ)

目 的：病院から在宅療養へスムーズに連携させるため、患者や家族の状況について関係者が情報を共有する「退院前カンファレンスシート」を平成25年度に作成した。これを普及させ、多職種の情報共有・在宅療養移行の準備をスムーズに行う環境を整える。

背 景：病院から在宅へ移行する際、在宅移行が可能かどうかの評価や、在宅療養の準備を行うための患者に関する必要な情報が十分ではなく、関係者間で共有できていない場合もある。

効 果・関係者や患者の家族などが在宅療養の準備をしやすくなり、不安の軽減につながる。

- ・退院前カンファレンスが効率よく行える。
- ・関係者が情報を共有しやすくなり、情報の入手漏れが防げる。
- ・病院から在宅への移行がスムーズになる。

(2-1) 横須賀市退院調整ルールの周知・普及

主な検討事項：横須賀市退院調整ルールの病院・在宅スタッフへの周知・普及方法

(2-2) 退院前カンファレンスシートの周知・普及

主な検討事項：カンファレンスシートの在宅側スタッフへの周知・普及方法

3．在宅療養支援関係者の顔の見える関係性づくり

(ウ、エ、カ)

目 的：安心して在宅療養ができるように、患者・家族を医療・介護両面からトータルに支援する関係者の顔の見える関係性を創出する。

背 景：在宅療養を支える関係者は多いが、現場で顔を合わせる機会や、ケースについての情報交換の機会も限られている。また、医療関係者と介護関係者の連携は十分とは言えず、誰がコーディネートするのか不明である場合もある。

効 果：顔の見える関係の構築により、現場での連携がスムーズになり、その結果、患者や家族にとって安心な在宅療養につながる。

(3-1) 多職種合同研修会の開催などによる関係性構築

目 的 在宅療養現場で市民を支える医療・介護関係者が相互連携しやすいように、ともに学ぶ場をつくることにより、在宅療養に関する情報を共有し、共通認識をもち、顔の見える横の関係を築く。

対 象 医療関係者、福祉関係者

開催時期 平成30年6月21日(木)

会 場 生涯学習センター大学習室

実施方法 センター連携拠点委託料で実施

- ・多職種合同研修会は、各ブロック拠点でブロック内での研修会を実施し、センター連携拠点が市全域の研修会を主催するが、これまで当会議で企画を検討し

てきた経験を踏まえ、市全域の研修会については、今年度も企画を検討し、その結果をセンター拠点が実施する。

検討事項 ・内容、開催方法、テーマ、講師等

(3-2) よこすかエチケット集の周知及び改訂

目 的 エチケット集は、当初から完璧なものとして作成したのではなく、随時、意見や提案を募集し、1年に1回程度の改訂を行いながら育てていくというコンセプトで作成した。多職種連携に寄与するため、さらに充実したエチケット集に育てていく。

検討事項 事務局あてに届いた意見・提案の内容を検討し、エチケットの修正、追加等により改訂する。

(3-3) 多職種連携による相談対応体制（多職種みんなでコーディネート：仮）の構築

目 的 横須賀市では、在宅医療・介護連携に関する統一した相談拠点は置かず、多職種の連携により相談に対応する体制づくりを目指している。そのような相談対応の体制づくりに向けて、どのような取り組みが必要か検討を進める。

＊ 平成 28 年度中に全体会議において、相談対応のための連携のあり方、連携のために求められる能力については検討済み。

検討事項 相談対応のための支援ツール、研修のあり方などを検討する。

C：研修・セミナー検討専門部会担当

Ⅲ. 関係者のスキルアップを目指す事業

4. 介護関係者対象の医療に関する研修等の実施 (力)

- 目 的：医療に精通していない介護関係者にも、在宅療養をサポートするチームの一員として情報を共有できるよう、医療について学ぶ機会を用意する。
- 背 景：ケアマネ・ヘルパーの医療経験の有無によって、医療関係の取り組み方が異なる。医療についての知識や経験が不足していると、医療関係者との連携がうまくいかない場合もある。
- 効 果：介護関係者が、医療について一定の知識を持つことで、医師や看護師、薬剤師等の医療関係者と円滑にコミュニケーションを行い、連携を深めることができる。その結果、患者や家族にとって安心できる在宅療養生活につながる。

(4-1) 介護職員対象の医療に関する研修の企画

- 目 的 ケアマネジャー・ヘルパー等介護職にも在宅療養現場での多職種連携に医療的知識は必要である。介護職の医療面でのスキルアップを目的に、在宅療養の現場で役立つ医療に関する研修機会を用意する。
- 対 象 ケアマネジャー・ヘルパー
- 事 業 名 介護職のための在宅療養セミナー
- 開催時期 ケアマネジャー対象基礎講座 6月14日(木) *平成29年度中に企画済み
ケアマネジャー対象トピック講座 3回(7月・10月・1月予定)
ヘルパー対象セミナー(横須賀市健康福祉財団主催) 3回予定
- 想定会場 ヴェルクよこすか ホール
- 主 催 横須賀市、横須賀市健康福祉財団共催(ヘルパーセミナーは財団主催、市共催)
- 要検討事項 ・内容、開催方法
・テーマ
・講師

5. 医療職対象の在宅療養に関する研修等の実施 (力)

- 目 的：医師をはじめとする病院医療職対象に、在宅療養についての考え方を周知し、在宅療養を支える家族や介護者等へわかりやすく説明する重要性を認識してもらう。
- 背 景：病院医療職の在宅療養や在宅看取りに対する意識の違いが、その後の在宅療養へのスムーズな移行に影響する。しかし、退院後の患者の在宅療養まで視野を広げている医療職ばかりではなく、在宅へのスムーズな移行ができないことがある。
- 効 果：病院医療職に在宅療養について理解を深めてもらうことで、患者や家族の不安を解消するような退院調整が行える。介護関係者も理解できるように説明してもらえることで、在宅療養のサポートがしやすくなる。その結果、患者や家族にとって安心して在宅療養を送れることにつながる。

(5-1) 病院医療職対象の在宅療養に関する研修の企画

⇒病院への「在宅療養出前セミナー」として、平成 25～29 年度に市内 9 病院で延 18 回実施。市内全病院を対象とし、複数回目の開催も可能とする。

事業名 ○○病院 在宅療養出前セミナー

主催 横須賀市、横須賀市医師会、会場病院

検討事項 セミナー内容の再検討（出前セミナー資料の更新）

6. その他研修等の企画

(カ)

(6-1) その他研修等の企画

⇒かかりつけ医セミナーの企画

平成 30 年度みんなで支える在宅療養シンポジウム開催要領（案）

主 催 横須賀市

目 的 本市は、住み慣れた我が家で療養したいという市民が、在宅療養・在宅看取りという選択ができるように地域医療の体制づくりを進めている。市民が、在宅療養・在宅見取りについて理解を深め、自らの最期を考える機会として、シンポジウムを開催する。

対 象 一般市民、医療関係者、福祉関係者 500 人（当日先着順）

開催時期 平成 31 年 1 月 27 日（日） 13：00～16：00（開場 12:30）

会 場 ヨコスカ・ベイサイド・ポケット（横須賀芸術劇場小ホール）

テ ー マ 未定

プログラム

第 1 部

13:00 開会 主催者挨拶

13:05 基調講演 未定
講 師 未定

14:35 休憩

第 2 部

14:50 パネルディスカッション

テーマ：未定

内 容：基調講演を受け、横須賀市ではどのような選択肢があるか、市内医師等の事例紹介を交えながら意見交換を行う。

構 成：①パネリストの発表
②ディスカッション
③コメンテーターから

コーディネーター：未定

パネリスト：市内医師等 2～3 名

コメンテーター：未定

16:00 閉会

そ の 他 ・手話通訳、要約筆記つき

平成 30 年度 在宅療養を支えるみなさんのための多職種合同研修会 企画書

- 1 趣旨 在宅での療養生活を送るには、多くの職種の方の協力と連携の強化が必要である。多職種間でいかにお互いを理解し、情報を共有し、うまく連携をしていくのかが求められる。

この研修事業は、在宅療養を支える様々な職種が一堂に会し、在宅療養の現状、課題、将来の展望などを共通認識として学び、また、相互に理解を深め、共に課題解決のための方策を検討するとともに、顔の見える関係を構築していくことを目的とする。

今回の研修会では、在宅となるか、病院となるか、施設がいいか、選択肢が複数あり、患者・家族にとって何を選ぶことが良いのか迷うケースについて、多職種によるグループで事例検討することにより、それぞれの職種、それぞれの立場で療養の場をどう設定するかという意思決定支援について学ぶ。

- 2 主催 在宅療養センター連携拠点（横須賀市医師会）、横須賀市
企画 横須賀市在宅療養連携会議

- 3 日時 平成 30 年 6 月 21 日（木）19：00～21：00

- 4 会場 横須賀市生涯学習センター大学習室
横須賀市西逸見町 1 - 38 - 11 ウェルシティ市民プラザ 5 階
京浜急行 逸見駅下車 徒歩 7 分
JR 横須賀線 横須賀駅下車 徒歩 7 分

- 5 対象 診療所医師、病院勤務医、訪問看護師、病院勤務看護師、薬剤師、歯科医師、MSW、ケアマネジャー、ヘルパー、栄養士、理学療法士、歯科衛生士、地域包括支援センター職員、老健職員、デイサービス施設職員、訪問リハビリ事業所職員、訪問入浴事業所職員、高齢者関係施設職員、病院職員、行政職員など

そのほか在宅療養を支える関係者

- 6 人数 定員 事前申し込み先着 200 名（定員を超えた場合は、職種別に調整）

- 7 テーマ その人に合った療養の場を多職種で考える！
～患者・家族の意思決定をどう支える？～

8 内 容

(1) 主催者あいさつ

(2) 趣旨説明・事例検討の進め方について説明

課題項目

- ①この事例に対して、まずそれぞれの職種がどのようにアプローチするか
- ②退院に向けて各職種がどのように関わり、どのような連携が必要か
- ③どのような意思決定支援が必要か
- ④退院（療養）場所はどこにするのか、その理由は何か
- ⑤本人・家族にとって「最善の選択」とは何か

(3) グループワーク・事例検討

①事例の紹介（2事例）

- ・事例を聞いて、必要な情報、考えられる支援を模造紙に記載。
- ・事例を検討し、迷ったポイントに対しどのように対応したか、意思決定プロセスにどのように関わったか、退院先を決定したポイント、など検討する。

②グループ発表

- ・各グループで迷った項目と検討された支援、退院先を選んだポイントの発表。

③①で紹介した「事例」の対応策の事務局（案）の紹介

- ・何に迷い、どのように考え、支援策選択したかを発表

(4) まとめコメント・あいさつ

多職種合同研修会

今年のテーマは…

その人に合った療養の場を多職種で考える！ ～患者・家族の意思決定をどう支える？～

在宅療養には、医療・介護の多職種の皆様の支えが必要不可欠です。

日々、多職種の皆さんは、それぞれのスキルを活かして、在宅療養に携わっていますが、選択肢が多く、患者・家族にとって何を選ぶことが良いのか迷うケースに直面することもあるはずです。

そんなとき、多職種の意見を聞くことで、解決のヒントが見えてくるかもしれません。

今回は、療養の場が複数想定されるケースにおける意思決定支援についてグループで事例検討を行います。

日 時 平成30年6月21日（木）19：00～21：00

会 場 横須賀市生涯学習センター大学習室

横須賀市西逸見町1-38-11 ウェルシティ市民プラザ5階

京浜急行「逸見駅」または JR 横須賀線「横須賀駅」下車 徒歩7分

地下に有料駐車場あります（4時間まで310円）

対 象 医療・介護関係者の方

定 員 先着200名（定員を超えた場合は、職種別に調整します）

申 込 次のいずれかの方法でお申し込みください

① 申し込み書に、氏名（フリガナ）、職種、勤務先（所属事業所名及び住所）、連絡先電話番号、FAX番号を明記の上、FAX送信

② 横須賀市医師会ホームページ「在宅医療」のページの申し込みフォームに入力

<http://www.yokosukashi-med.or.jp/zaitaku/>

締 切 6月14日（木）必着

申し込み先 在宅療養センター連携拠点（横須賀市医師会かもめ広場）

FAX番号 046-823-4534

HP <http://www.yokosukashi-med.or.jp/zaitaku/>



参加費

無料!!

※ 参加決定は、お受けできない場合にのみ、電話もしくはFAXでご連絡いたします。

※ 日本医師会生涯教育単位 2単位 （カリキュラムコード10.13）

在宅療養センター連携拠点(横須賀市医師会 担当:福島)

送付先

FAX 番号 823-4534

締め切り 6月14日(木)

日時 : 6月21日(木)19:00~21:00

会場 : 生涯学習センター大学習室

在宅療養を支えるみなさんのための

平成30年度 多職種合同研修会 参加申し込み書

勤務先事業所名	
勤務先住所	
連絡先電話番号	
連絡先 FAX 番号	

代表者に ○印	参加希望者氏名 (フリガナは必ずお書きください)		職種番号 ※下記参照
1	フリガナ 氏 名		()
2	フリガナ 氏 名		()
3	フリガナ 氏 名		()
4	フリガナ 氏 名		()

※職種番号欄には次の中から番号を選んでご記入ください。

- ①医師 ②歯科医師 ③薬剤師 ④看護師 ⑤ケアマネ ⑥ヘルパー ⑦MSW ⑧栄養士
⑨リハビリ職(PT・ST・OT) ⑩歯科衛生士 ⑪事務職員 ⑫その他(カッコ内に職種をご記入ください)

- * 複数人で申し込まれる場合は、代表者の番号に○印をつけてください。
- * 締め切りは、6月14日(木)必着です。
- * 定員を超え、参加いただけない場合のみ、電話あるいはFAXで代表者にご連絡いたします。
- * 連絡のない場合は参加できますので、連絡なく欠席されることのないよう、必ずご出席ください。
- * 日本医師会生涯教育単位 2単位 (カリキュラムコード10.13)

平成 30 年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー 基礎講座企画書

- 1 趣旨 介護を必要とする市民の在宅療養生活に欠かせないケアマネジャーは、市民の相談に乗り、支援する役割を担っているが、そのために医療関係者との連携は欠かせない。医師・看護師など医療関係者と円滑にコミュニケーションを行い、連携を深めるため、ケアマネジャーは、必要な医療知識を学ぶ機会を求めている。
- そこで、ケアマネジャーを対象に市民の在宅療養を支援するため必要な医療知識を学ぶセミナーを開催する。

- 2 主催 横須賀市
企画 横須賀市在宅療養連携会議
共催 公益財団法人横須賀市健康福祉財団

- 3 対象 初心者・ベテランを問わずケアマネジャー全般 定員 200 人
※新任ケアマネジャーには、特に受講を勧める
※二次医療圏（鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町）にも案内をする

- 4 日時 平成 30 年 6 月 14 日（木） 14:00～17:30

- 5 会場 横須賀市役所 本庁舎 3 号館 5 階 正庁

- 6 テーマ 知っておきたい在宅での基礎的な医療知識

- 7 内容

内容	時間		講師	
あいさつ	14:00～14:05	5 分		
①在宅医療	14:05～15:05	60 分	医師	横須賀市医師会 金成医院 金成 正浩 氏
（ 休 憩 ）		10 分		
②在宅での服薬	15:15～16:15	60 分	薬剤師	横須賀市薬剤師会 ヒロ薬局 塚本 久美 氏
（ 休 憩 ）		10 分		
③訪問看護	16:25～17:25	60 分	看護師	横三地区訪問看護ステーション連絡協議会 横須賀ブロック 訪問看護ステーション友・友 富澤 恵子 氏



在宅療養セミナー 基礎講座



～知っておきたい在宅での基礎的な医療知識～

ケアマネジャーさんが、在宅療養の現場で医療関係者の方々とより円滑にコミュニケーションが行えるよう、基礎的な医療知識を学べる講座を企画しました。

初心者の方はもちろん、ベテランのケアマネジャーさんもぜひご参加ください！

日 時 平成 30 年（2018 年）6 月 14 日（木） 14:00～17:30

* 13:30 から開場、受付開始の予定です。

会 場 横須賀市役所 本庁舎 3 号館 5 階 正庁

* 駐車券の発行はありません。公共交通機関をご利用ください。

対 象 ケアマネジャー

* 横須賀市内の他、横須賀・三浦二次医療圏内（鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町）の方もぜひご参加ください。

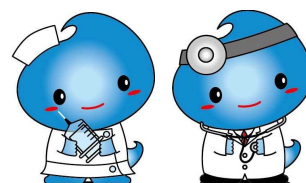
申 込 別紙申込書に必要事項を記入し、6 月 6 日（水）までにお申し込みください。
（定員 200 名・先着順）

講 義

内 容	講 師
① 在宅医療	横須賀市医師会（金成医院） 医師 金成 正浩 氏
② 在宅での服薬	横須賀市薬剤師会（ヒロ薬局） 薬剤師 塚本 久美 氏
③ 訪問看護	横三地区訪問看護ステーション連絡協議会 横須賀ブロック （訪問看護ステーション友・友） 看護師 富澤 恵子 氏

その他 当日は、「受講証明書」を発行します。

主催 横須賀市
共催 公益財団法人横須賀市健康福祉財団
企画 横須賀市在宅療養連携会議
後援 鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町



〔問い合わせ先〕 横須賀市健康部地域医療推進課

TEL : 046-822-4332 FAX : 046-822-4363

E-mail : iryouseisaku@city.yokosuka.kanagawa.jp

ケアマネジャーのための在宅療養セミナー基礎講座

～知っておきたい在宅での基礎的な医療知識～

送付先 横須賀市健康部地域医療推進課 在宅療養連携推進係
FAX番号 046-822-4363

日時：平成30年6月14日（木）14：00～17：30

会場：横須賀市役所 本庁舎3号館5階 正庁

＊駐車券の発行はありません。公共交通機関をご利用ください。

事業所名 _____

電話番号 _____ FAX 番号 _____

事業所所在地（○をつけて下さい）

横須賀市 ・ 鎌倉市 ・ 逗子市 ・ 三浦市 ・ 葉山町

参 加 者	ふりがな
	氏 名
	ふりがな
	氏 名
	ふりがな
	氏 名

※氏名のふりがなは必ずご記入ください。

〔提出期限〕平成30年6月6日（水）までにご提出ください。

〔問い合わせ先〕横須賀市健康部地域医療推進課 小知和

TEL：046-822-4332 FAX：046-822-4363

E-mail：iryouseisaku@city.yokosuka.kanagawa.jp

平成 30 年度病院在宅療養出前セミナー企画書

1. 目的
在宅療養や在宅看取りについて、在宅療養を支えるスタッフと病院医療職の認識の違いが、その後の在宅療養へのスムーズな移行に影響することもあるという現状を踏まえ、病院医療職に「在宅療養・看取りの現場について理解してもらう」ことを目的にセミナーを開催する。
病院スタッフ、在宅スタッフの相互理解を深め、病診連携を進展させることにより、患者のスムーズな退院、安心な在宅療養のスタートを目指す。
2. 主催 横須賀市、横須賀市医師会、実施病院
3. 実施病院 開催希望病院 5 病院程度
4. 会場 各病院内（出前セミナー形式）
※ 平成 25 年度～29 年度で、湘南、自衛隊横須賀、聖ヨゼフ、横須賀共済、市立うわまち、衣笠、浦賀、久里浜医療センター、市立市民の 9 病院で延べ 18 回実施
※ 平成 30 年度は市内全病院を対象
5. 対象 各病院の全職員
・特に医師の参加をお願いする。
6. 開催時期 病院ごと個別に調整
※ 時間は平日夜（18 時～20 時頃）の 1 時間程度
7. 内容
 - （1）横須賀市の現状と医療需要の変化（講師：地域医療推進課職員）
 - ・死亡数予測、人口推計から見えてくること
 - ・在宅療養、在宅看取りが必要とされること
 - ・地域医療構想から見える医療需要の変化
 - （2）在宅医療の現実（講師：在宅療養支援診療所医師）
 - ・在宅医療総論
 - ・在宅医療の実力（在宅ではここまでできる）
 - ・在宅への退院で意識してほしいこと
 - ・在宅医療の受入側の体制も均一ではなく、在宅医もまだ少ない現実
 - （3）＊①または②を選択
 - ①症例検討（病院ごとに内容を変更）
 - ・当該病院から退院し、講師が担当している患者の在宅での状況を症例として紹介
 - ②意見交換
 - ・講師と病院医師等の対話の時間を設け、病診連携や在宅医療についての意見を交換
8. 講師 在宅療養支援診療所医師（医師会推薦者）